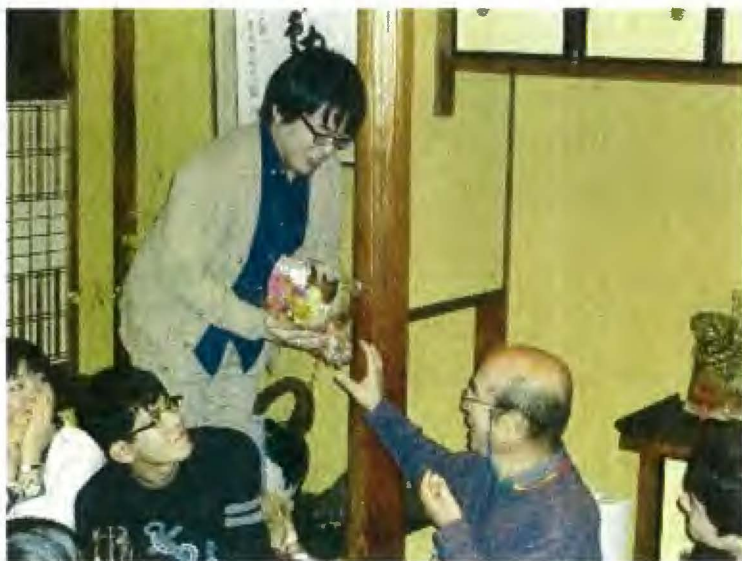


京都大学地理学談話会

会 報

第26号



2015

[目 次]

寄稿

- 私の研究のはじまり…………… 水野 一晴 1
富山いっぺん来てみられ …………… 旅家 法子(2013年卒) 3

秋季地理学談話会の報告 …………… 5

- 〈OB交流会〉 講師：朝山 博之(1998年卒)、本多 真太郎(2007年卒) 5
〈講演会〉
「地理学、アメリカ研究そして異文化理解」…………… 6
中野 雅博(1969年卒)

研究室便り …………… 8

- 〈小林致広教授の退職について〉…………… 8
〈水野一晴教授の着任について〉…………… 8
〈総合博物館への特定助教(地理資料部門)の着任と
地図資料等の利用について〉…………… 9
〈外国人研究者～訪問された方～〉…………… 9
〈博士の学位について〉…………… 9
〈地理学教室への寄贈図書～2014年度～〉…………… 10
〈研究室の動静〉…………… 15
〈新メンバーの自己紹介〉…………… 15
〈2014年度の実習旅行〉…………… 17
〈学部卒業生・院生の進路〉…………… 17
〈院生・研究員の研究状況の報告〉…………… 17
〈2015年度講義題目〉…………… 18

事務局から …………… 19

- 〈地理学談話会2014年度会計報告〉…………… 19
〈計報〉…………… 20
〈住所不明者についてお願い〉…………… 20
〈オープンキャンパス：2014年度の報告と2015年度のお知らせ〉…………… 21
〈2015年度秋季地理学談話会のお知らせ〉…………… 22
〈地理学教室所蔵の写真資料について〉…………… 22

※表紙写真：2015年2月7日の予餞会で、退職される小林致広先生へ花束贈呈

寄稿

私の研究のはじまり

文学研究科・地理学専修

水野 一晴

私はこれまでいろんな地理学教室を転々としてきた。最初は学部3年生として入った名古屋大学文学部地理学教室であった。文学部であったため、学部生や大学院生の大半は人文地理学を専攻していて、私と同じ3年生6人のなかでも自然地理を専攻したのは私ひとりであった。自然地理の教員は非常に厳格な井関弘太郎先生であって、ときどき激高されるので学生たちからは非常に恐れられていた。学生たちは井関先生の前ではみな緊張していた。助教授だった石原潤先生が井関先生にとっても気を遣われていたのが、我々学生たちから見てもよくわかった。しかし、私は根っからの楽道家だったので、先生の厳格さをあまり気にせず過ごしていた。ある実習の授業時に、先生は同期6人に対して地図を広げて実習の作業を指示されていた。その作業をひどく大変に思った私は心の中で「あ～面倒くさっ」とつぶやいたのだった。しかし、運悪くそのつぶやきは唇の震動から張り詰めた空気を伝って井関先生の耳まで届いてしまった。井関先生の爆発が30分間続き、授業後まわりの学生たちから「おまえのせいで散々だよ」とぼやかされた。

あるとき、私は井関先生に卒業論文のテーマを相談するために先生の研究室を訪れた。私が「河川の水環境かどこかの地形で卒業論文を書きたいと思います」と話したところ、「そんな河川の水環境や地形なんて、きみがやらなくてもやる人はいっぱいいる。きみは山を登るのだから山の植生をやりなさい」と私の顔をじっと見ておっしゃられた。それに続いて「世界的には植生地理は地理学の中で重要な分野なのだが、日本ではほんのわずかの人がしか研究しておらず、すごく立ち遅れている。きみは山を登るし、元気がいいから、日本の植生地理のパイオニアになりなさい」とおっしゃられた。私は、先生がご自分の専門の地形学を勧めるのではなく、さらに学部生に向かっての「日本の地理の将来を背負っていくぐらいの覚悟で卒業論文を書け」という大胆な発言とその気迫さに押され、「はい、わかりました。がんばります」と答えて部屋を後にした。動揺した状態でそのまま院生室に行き、院生の先輩方に「どうしよう。井関先生に山の植生で卒論を書けと言われて、そのまま、はいと答えてしまった」と話した。その当時、院生室には岡橋秀典さん（現広島大教授）、日野正輝さん（現東北大教授）、北村修二さん（現徳島大学教授）、高木彰彦さん（現九州大教授）、岡本耕平さん（現名古屋大教授）、神谷浩夫さん（現金沢大教授）といった、そうそうたるメンバーがいて、青ざめた顔をした私を迎え入れてくれた。先輩のひとりに「水野って、植物がわかるの？」

と聞かれ、「チューリップとタンポポくらいしかわからない」と答えると、「それで、どうやって植生で卒論を書くんだ？」と心配された。

このときは、この井関先生のひとことで私がその後数十年間、ずっと植生地理学の研究をやることになろうとは思ってもよらなかった。私は南アルプスを縦走したことを思い出した。山の稜線を歩いているときどき「お花畑」が突然現れるのだ。それを不思議に思っていた。どうして、「お花畑」は突然現れるのだろうか？そこには何か特別な環境条件が働いているのだろうか。そう思った私は、それ以降、ひたすらザックを背負って山をさまよい歩き、その解明に夢中になった。助手だった溝口常俊さんは「植生はカラーでないかわからないだろう」とおっしゃって、校費で高価なカラー空中写真を購入するなど何かと研究を支援してくださった。なんとか卒業論文を書き終えたところ、井関先生に「この卒業論文を地理学評論の論説に投稿しなさい」と言われた。私はそのとき、地理学評論の論説に掲載されることの難しさがあまりわかっておらず、ただ「はい。がんばります」とだけ答えた。院生の人たちからは「卒論を地理評の論説に投稿するなんてなんと無謀な」と言われながらも、なんとか投稿用に論文を仕上げ、井関先生に手渡した。数週間後に先生から原稿を返されたが、数ページに赤が入っているだけで、「この要領であとは自分で直しなさい」とおっしゃられた。この年から井関先生

は学部長になられて多忙を極め、私の論文を読む時間があまりなかったのだろう。しかし、私は困ってしまった。それで、もうひとりの教授であった石水照雄先生にお願いして見ていただいた。2週間後には返していただいたが、分野があまりにも違いすぎるせいか、文章の推敲のみの修正がされてあった。そのとき、石原先生は文部省の在外研究でイギリス滞在中であったので、ご帰国されてから見ていただいた。私は石原先生から返していただいた原稿を見て驚いた。ものすごく丁寧に読んでいただいていた、内容の深いところまでコメントされてあったのだ。人文地理の先生が自然地理の論文に、こうも深く内容につきこんで議論してくださっていることにひどく感激した。論文は掲載に至るまで何度も戻ってきて、かなり時間を要したが、なんとか掲載された。これが私の自信につながったのは間違いない。若かったので、査読者にぼろくそに言われても、怖いもの知らずの勢いがあったのだ。

私は名大の大学院修士課程の入試を受けたが落ちてしまった。当時、修士課程の定員は2名で、1名は前年度に不合格になって研究生をしていた先輩が通って、もう1名は受験した同期4人の中で唯一の女子学生が合格した。大学院入試に落ちることもまんざら捨てたものでもなく、1年間高校の地理の非常勤講師をしたことは私にとってかけがえのない経験になった。しかし、落ちた3人が翌年に再受験するとすると、1学年下には秀才の宮

町良広くん（現大分大教授）らが出て、大変な状態になる。私は井関先生に呼ばれて、「きみは来年には北大を受験しなさい」と言われた。「自然地理をやるなら自然地理の研究室に行くのはいいことだ」とおっしゃられた。しかし、まわりの人から「井関先生が、水野は英語ができないから来年また名大を受験してもどうせ落ちるだろうと話されていた」と聞かされた。けっきょく、修士課程は北大、博士課程は都立大に進み、研究はその後アフリカ大陸へと大きく方向転換していったのだった。井関先生は今頃、私が先生の出身教室である京大地理の教員になったのを見て、天国から笑っていらっしやるのではないかと思う。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

富山いっぺん来てみられ

射水市役所

旅家 法子(2013年卒)

初めまして、こんにちは。2013年3月に地理学研究室を卒業した旅家と申します。卒業後、地元である富山県の射水市役所で働き始め、今年で3年目になります。京都を離れて丸2年経ちますが、未だに関西電気保安協会は節を付けずには読めません。この原稿の依頼を受けた時は「なんで私が!？」と思いましたが、せっかくスペースをいただけたので私の

仕事の話と射水市の紹介でもしようと思えます。

私は今、社会福祉課の障がい福祉係というところで働いています。そこでしているのは、障がい者の方々への色々なサービスを提供するためのお仕事です。私はこれまで、障がい者やその家族の方々に、日常生活においてほとんど触れ合うことがありませんでした。そのような方々に対して窓口や電話で直接対応するので、初めての体験も多く、たくさんの方を学ばせていただいております。1年目は車椅子や白杖といった用具を交付する仕事、2年目は医療費助成の事務を担当し、3年目である今年には障がい者手帳の交付事務を担当しています。来年はおそらく異動になるとのことです。今の職場では地図を見る習慣がほとんど無いので、今度の部署は日常的に地図を眺められるところだと嬉しいなあと思っています。

市役所に入って、驚いたことが一つあります。それは、職員も来られる住民の方も想像していたよりはるかに訛っているということです。私自身、京都にいた間も富山弁を話してはいましたが、それを軽く凌駕する訛りっぷりに驚くと共に、感動しました。これぞ市役所と。

「今見てくっから、あんたちよっこそこでねまっとられか」

「きのどくな、たのんちゃ」

と、文字にするとわけのわからないような会話が日常的に繰り広げられています。しかしそこには、そうでなければ築けな

い信頼関係があるのだと、実感させられました。この土地に住んでいる時間が長ければ長いほど、特に高齢者は、地元の言葉づかいやイントネーションでないと聞き取れないことが多いからです。接遇研修で学ぶような丁寧な言葉遣いや態度が求められることももちろんありますが、住民の方相手の説明では、いかに相手にわかりやすく伝わるかが重要になってきます。その上、相手の機嫌を損ねないように、失礼の無いようにバランスを取るのとはなかなか難しいことです。なんとなく、この辺が聞き取り調査と似ているなあと思っています。地理学研究室で培った経験を忘れないように、そこからさらに経験を積み重ね、よりよい話し方ができるようにがんばります。笑顔を忘れず、ポジティブに。

さて、ここらで射水市の紹介をさせていただきます。射水市は、富山湾に面し、富山市と高岡市の間に位置する人口94,000人程度の地方都市です。新湊市、小杉町、大門町、大島町、下村が合併してできた市で、来る2015年11月1日に



砺波のチューリップフェア



万葉線のドラえもん ترام

合併10周年を迎えます。白エビ、ベニズワイガニ、ホタルイカがおいしいので、いらっしゃった際はぜひ味わっていただきたいです。また、新湊の内川沿岸を「日本のベニス」と自称していましたが、この頃自称ではなくなったように思われます。「日本のベニス」とgoogleで検索したら一番に出てきました。昔は漁船を停めておくだけの水路でしたが、最近そこに架かる橋の多彩さが注目され、遊歩道が整備されたり沿岸にカフェが開設されたり遊覧船が運航されたりしています。ただ、一見してわかるような強い魅力は無いので、時間と体力にゆとりを持つてのんびりお散歩するのをおすすめします。個人的な意見ですが、磯の香りや漁村の空気をゆっくり感じる事ができるのがこの場所の醍醐味だと思っています。

射水市の職員という立場的には射水市に人を呼ばなければいけません、正直、



日本三大仏のひとつ、高岡大仏

公共交通機関ではなかなか行きづらい場所です。大阪、京都からなら特急で金沢へ、そこから鈍行で高岡へ、そして万葉線という路面電車に乗って新湊へ。東京からなら北陸新幹線で富山駅へ、そこから鈍行に乗って小杉駅へ。いずれにしろ、市内の移動は主にコミュニティバスになると思われます。結構大変です。なので、射水市に来てくれなんて贅沢は言いません。富山県に来てください。砺波平野の散居村や立山連峰、黒部ダムなど、地理をかじったことがある方なら、たとえそうでない方でも、一度は行ってみたい場所がひとつくらいあると思います。そこを訪れるために構いません。とりあえず富山に来てみてください。新幹線でも、特急でも、飛行機でも。そこから公共交通機関のみで移動するのが難しそうならレンタカーを利用してください。そして、思い思いの楽しみ方をしてください。ひとつの場所について、100人いれば、100

通りの楽しみ方があると私は思っています。自分なりに富山を楽しんで、そして、また行きたいと思ってくだされば、再び来てくだされば、それ以上のことはありません。なので、ぜひ、一度来てみてください。

→↑←↓→↑←↓→↑←↓→↑←↓→↑
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

秋季地理学談話会の報告

2014年11月29日、文学部新館の地理学実習室と共同研究室で、秋季地理学談話会を開催し、卒業生や在学生の皆様が参加されました。講演をしてくださった中野雅博氏（1969年卒）や、OB交流会で講師を務めてくださった卒業生の方々に厚く御礼申し上げます。

OB交流会と講演会の報告をします。

<OB交流会>

卒業生の朝山博之氏（灘中学・高等学校、1998年卒）と本多真太郎氏（鹿島建設、2007年卒）のお二人が講師を務めてくださいました。在学当時の思い出や社会に出るまでの体験、社会に出てからの歩みなど、エピソードを交えながら、アドバイスだけでなく温かい励ましの言葉もいただきました。活発な質疑や意見交換があり、楽しい交流の機会となりました。



OB交流会の様子

講師の方々と司会者（朝倉慎人氏（D3）と橋詰奈央氏（4回生））との間で打ち合わせして、進行内容も企画していただきました。ありがとうございました。



懇親会にて

<講演会>

「地理学，アメリカ研究

そして異文化理解」

立命館大学国際関係学部
中野 雅博(1969年卒)

昨年12月過ぎに70歳になった。1981年から務めた立命館大学を定年になる。そのような折に京大地理学教室の杉浦(田中)教授から談話会での卓話の依頼を受けた。地理学から「アメリカ研究」へ移って30年余り、いままでの談話会の諸先生のような業績や活躍もない小生が果たして何をお話すれば・・・と思ったが、自分の個人史を通して、地理学や「地理的なもの」を追い求めて感じたことを若い研究者や後輩の皆様に、「異文化理解」と「多様性」の視点からお話してみたいと思い、引き受けることにした。

なぜ、京大で地理学を選択したかについては、①幼年期より地図や時刻表への興味、②テレビの「兼高かおる世界の旅」や「新日本紀行」の動画、③小中高の教員による地理的見方、郷土地理、世界の社会経済的分析などの教育によるところが大きかった。しかし、大学入学後、「地理」と「地理学」の違いを教えられ、「経済地理学」の「工業地理、工業立地論」を研究したが、金沢大学の助手時代に、砺波平野の散村、手取川扇状地、五箇山の巡検を通して地理学研究の面白さを知った。大学時代はフランス留学を想定したが、金沢大学三年目に行ったアメリカ5週間一人旅の強烈な異文化体験が、自分の将来を方向づけた。大分大学では、教材研究としての地理の授業の一環として学生と行った「地域調査」(津久見市保戸島、佐伯市宇目町)は地理学がもつ総合力とともに地元との交流を学ぶ良い機会でもあった。在職後五年目に文部省の

在外研究の機会を得てアメリカ合衆国のワシントン大学とペンシルベニア州立大学に留学した。日米の大学教育や研究の違いと、前回の短期旅行とは異なった異文化摩擦や他者性を通して、「アメリカという国家」や「アメリカ文化」を知りたいという欲求が芽生えた。帰国後、立命館大学へ移籍し、初めて地理学専攻生の教育に携わることになったが、それまでの国立大学とはいろいろな面で違って良い意味での驚きの連続であった。例えば、大人数の講義、膨大な数の卒業論文の指導と審査、毎年の入試問題作成と採点のほか、多くの地理オタクを含む「学生の多様性」であり、ゼミや授業や巡検やコンパで強く感じる強烈な「学生のパワーと熱気」であった。立命館大学地理5年目に谷岡武雄総長から「国際関係学部創設と地域研究（アメリカ研究）担当」の話があった。工業地理学研究の限界も若干感じていたが、それ以上に「アメリカを本格的に研究したい」という強い希望が勝った。日米友好基金の援助を受けて14ヵ月ペンシルベニア大学（フィラデルフィア）で「American Civilization」を研究した。アメリカ史をベースに都市、文学、移民、社会史、思想、景観、物質文化など多岐に亘った。地元の上流階級の家族との交流やアメリカ史の現場探訪、日々の生活、自分の周り全てがアメリカ研究の材料であった。大学院では、多様な民族的学問的背景の院生、少人数教育、リーディング重視と問題発見型学習で、活発な議論と意見交換が行われた。国際

関係学部での「アメリカ研究」は、歴史と地理をベースにした総合型の授業で、学生が理解しやすいようにスライドやVTRの画像や新聞記事を多用し、具体的な移民や黒人問題を通してアメリカ的信条や価値、民主主義を語った。またアメリカ研究センター所長を併任し、アメリカから歴史、文学、文化研究の第一人者を招聘して立命館大学で10年間開催された京都アメリカ研究夏期セミナーは非常に刺激的な啓発と交流の場であった。2004年、大分県別府市にある立命館アジア太平洋大学（APU）へ副学長として転勤を命ぜられた。大学の特徴は、①学生と教職員の約半分が外国人、②日英二言語教育、③世界80数カ国からなる多言語多文化キャンパス、④問題発見型のアクティブ・ラーニング、であった。従来の研究と教育のみ大学生活が、日英二言語での大学行政、渉外活動、そして英語授業へと変化した。APUでの体験を通して得たものは、①米語、英国語ではない第三の英語でのコミュニケーションの重要性、②自文化や他者の相対化、③文化摩擦を緩和する多文化環境の共生であった。四年後、再び立命館大学へ戻り、文部科学省のスーパーグローバル大学に関連して英語で「地理学入門」を担当し退職した。振り返って、異文化や他者への興味からはじめた地理学を、地域研究という総合的、問題解決的な分野に足を踏み入れ、複雑な社会や文化の文脈の解明をめざし、最終的には、今日の世界や社会の多様な文化や価値の理解と受容であった

が、その根本にあったのが「京大地理のアカデミズム（伝統）」と多様な人々との出会いであった。そして、今日求められているのは、理念としての文化相対主義だけではなく、コミュニケーションを通しての異文化理解が必要であると結論した。



講演会

注) 中野氏は、談話会当時（2014年11月）は立命館大学国際関係学部特別任用教授、現在（2015年5月）は立命館大学国際関係学部名誉教授です。

研究室便り

＜小林致広教授の退職について＞

2010年4月に着任されて以来、地理学教室で研究・教育にあたってこられた小林致広先生（1972年卒）が、2015年3月末をもって京都大学を退職されました。

小林先生は、その在任中、メソアメリカのエスノヒストリーならびに中南米先住民民族運動の研究の研究を進められながら、学部学生ならびに院生の指導にあたってこられました。いつも飄々と飾らない率直な態度で、学生たちに接してくださいました。小林先生のご意向で、退職に際しての特別な行事は執り行いませんでした。

小林先生は、4月からは、同志社大学で非常勤講師を務めながら、自由な時間を満喫しておられるご様子です。先生には、今後もお健やかにご活躍されますことを願ってやみません。なお、小林先生は、4月1日付けで京都大学名誉教授の称号を授与されました。

＜水野一晴教授の着任について＞

2015年4月より、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科より、水野一晴先生が地理学専修の教授に着任されました。水野先生は、1982年に名古屋大学文学部を卒業された後、北海道大学、東京都立大学で自然地理学を学ばれました。

水野先生の主要な研究テーマは、アフリカの自然、とくに氷河後退域の植生遷移です。その対象とするフィールドは、アフリカだけでなく、南米、インド、日本、また、高山地域や乾燥地域など、多様な地域での調査とそれらの比較研究に取り組んでおられます。また、最近では、環境の変化と人間活動との関係性を追求

する人文地理学へと領域を広げておられます。精密なフィールドワーク，歴史的な文献資料調査，GIS による分析など，水野先生ご自身の幅広い視野とアプローチを活かして，研究と教育にあたってくださることと期待されます。

＜総合博物館への特定助教 (地理資料部門)の着任と 地図資料等の利用について＞

2015年4月より地理資料部門の特定助教として，網島聖氏(2005年卒)が着任されました(勤務日：月～金，原則として9:00 - 17:00(除く，昼休み))。

総合博物館地理資料部門に収蔵されている地図資料等の閲覧・撮影などを希望される方は，他の文化史部門(日本史・考古学)同様，お手数ですが，下記の窓口までご連絡のうえ，所定の手続きをお取りくださいますよう，お願いいたします。

京都大学総合博物館 事務室

電話：075-753-3272

＜外国人研究者～訪問された方～＞

2014年2月24日，中山大學地理科学・規画学院のご一行が，都市地理学・日本巡検の一環として，地理学教室を訪問されました。



総合博物館で古地球儀を見学

＜博士の学位について＞

博士の学位に関することから全般について，概略を説明いたします。

同封しております「学位論文の申請と審査について」(別紙)をご覧ください。課程博士と論文博士，二つの種類の学位について，内容や手続き等を説明しております。

学位の申請を希望されておられる方は，文学部の第二教務掛(電話：075-753-2710)から事務手続きの詳細に関する冊子や説明をお取り寄せいただけますとともに，地理学の専修主任まで，学位の申請希望をお知らせくださいますよう，お願いいたします。当該分野の教員の下承を得ていることは，学位申請の要件の一つです。主任(教室の窓口として)を介して，申請者と教室との間で相談や検討を重ねながら手続きを進めることで，全体のプロセスをより円滑に進められたらと存じます。

なお、今年度の地理の専修主任は、田中和子が務めております。ご不明の点などございましたら、どうぞお問い合わせください。また、もし、教務掛との連絡等が難しいようでしたら、これについてもご相談くださいますよう、お願いいたします。

博士号にふさわしい優れた論文であれば、積極的に学位を出したいという地理学教室の方針に変わりはありません。ご考慮いただければ、幸いです。

連絡先

電話：075-753-2832 (研究室)

電子メール：

sugiura.kazuko.8x@kyoto-u.ac.jp

<地理学教室への寄贈図書

～2014年度～>

昨年度、地理学教室にご寄贈いただいた図書の一覧です（雑誌・定期刊行物等は除く）。寄贈くださいました方々に厚く御礼申し上げます。これらの図書は、文学研究科図書館または地理学共同研究室に配置し、学生ならびに教室スタッフの研究・教育に活用させていただいております。

過去にいただいた図書も含めて、これらの寄贈図書は、皆様にもご利用いただけるようにしておりますので、どうぞ活用ください。

(図書)

- ・観光学ガイドブック 新しい知的領野への旅立ち／ナカニシヤ出版
- ・都市構造と都市政策／古今書院
- ・グローバルプレッシャー下の日本の産業集積／日本経済評論社
- ・環東シナ海をめぐる文化とひとの交流<東アジア沿海の歴史生態と文化交渉シリーズ1>
- ・近世・近代における日本列島の沿海社会と海運<東アジア沿海の歴史生態と文化交渉シリーズ2>
- ・県民性の統計学／角川書店
- ・県民性の日本地図5／文春新書 166
- ・出身県でわかる人の性格：県民性の研究／草思社
- ・受容のしくみと地域暗黙知／新評論
- ・整備新幹線評価論：先入観にとらわれず科学的に評価しよう／ピーテック出版部
- ・国会等の移転：オンライン講演集／国土交通省国土計画局首都機能移転企画課
- ・首都機能移転オンライン講演集／国土交通省国土計画局
- ・各国人口の規模と構造／古今書院
- ・人口変動とその要因／古今書院
- ・市町村人口推計マニュアル／古今書院
- ・将来人口推計の視点：日本の将来推計人口(平成14年1月推計)とそれを巡る議論／ぎょうせい
- ・人口推計入門／古今書院
- ・井上靖とわが町―天城湯ヶ島超ふるさと叢書／第三集，第四集，第五集，第六集，第七集，第十集(四)／天城湯ヶ島町
- ・井上靖と天城湯ヶ島／天城湯ヶ島町
- ・観光メディア論／ナカニシヤ出版
- ・観光リゾート開発の人類学／勁草書房
- ・近代日本の国際リゾート―一九三〇年代の国際観光ホテルを中心に／青弓社
- ・外地鉄道古写真帖／新人物往来社
- ・旅行者行動の心理学／関西大学出版部
- ・観光回遊論―観光行動の社会工学的研究／風間書房

- ・語りからみる原風景／萌文社
- ・農家女性の社会学—農の元気は女から／コモンズ
- ・フクシマの正義—「日本の変わらなさ」との闘い／幻冬社
- ・中国との出会い／東亜同文書院・中国調査旅行記録 第1巻
- ・ドイツ市町村の地域改革と現状／古今書院
- ・日本人口の成長と経済発展／日本統計協会
- ・人口分析入門／古今書院
- ・工業地域の労働力需給／大明堂
- ・日本のコモンズ思想／岩波書店
- ・交通インフラ・ファイナンス／成山堂書店
- ・カール・フォン・リンネの地域誌『スコーネ旅行』に描かれた自然・経済・文化／古今書院
- ・日本人のふるさと：高度成長以前の原風景／岩波書店
- ・GIS 実習マニュアル：Arc View 版／日本測量協会
- ・日本経済と地域構造／原書房
- ・首都圏白書 平成6年版／大蔵省印刷局
- ・四全総は日本を変えるか／大明堂
- ・港湾の地理／古今書院
- ・大学的愛知ガイド：こだわりの歩き方／昭和堂
- ・紀州藩士 酒井伴四郎関係文書 清文堂<清文堂史料叢書第124>
- ・災害の地理学<立命館大学人文学企画叢書02>
- ・人間にとってスイカとは何か：カラハリ狩猟民と考える／臨川書店
- ・古地図で楽しむなごや今昔／風媒社
- ・重源と東大寺—鎌倉時代の復興を支えた人びと—／大阪狭山市立郷土資料館
- ・特別展 変わる寺内町像—発掘調査の成果から—／八尾市立歴史民俗資料館
- ・島根の国絵図—出雲・石見・隠岐／今井出版
- ・地理学教室 80 年史—1984～2014—／立命館大学文学部地理学教室
- ・特別展 敦賀湊と三国湊／福井県立歴史博物館
- ・京都大学東南アジア研究所 要覧 2014
- ・冬の花火—高橋誠一先生の思い出と足跡—／「高橋誠一先生を偲ぶ会」実行委員会編
- ・立教大学所蔵外邦国目録
- ・試みとしての環境民俗学—琵琶湖のフィールドから／雄山閣出版
- ・京都市の文化財（記念物）／京都市文化観光局
- ・京都市の文化財（建造物・文化財環境保全地区）／京都市文化観光局
- ・桂離宮／豊書房
- ・歴史的建造物の保存と活用—京都市内の国登録有形文化財より／京都市文化市民局文化財保護課
- ・ごっくん馬路村の村おこし—ちっちゃな村のおっきな感動物語／日本経済新聞社
- ・松江 堀川めぐり／松江今井書店
- ・宍道湖抒情／くもん
- ・宍道湖風景考—風景は見つめられてよくなる／SI リサーチ
- ・放射能に克つ農の営み—ふくしまから希望の復興へ／コモンズ
- ・原発事故と農の復興—避難すれば、それですむのか？！／コモンズ
- ・「フクシマ」論—原子カムラはなぜ生まれたのか／青土社
- ・パパラギー—はじめて文明を見た南海の酋長ツイアピの演説集／立風書房
- ・サンゴ礁と人間—ポリネシアのフィールドノート／慶應義塾大学出版会
- ・満州鉄道まぼろし旅行／文芸春秋
- ・和歌の浦百景—古写真でみる「名勝」の歴史／東方出版
- ・パリ・世紀末パノラマ館—エッフェル塔からチョコレートまで／中央公論新社
- ・ブルゴーニュ・ワイン—地図と歩く、黄金丘陵／柴田書店
- ・DVD：『満鉄記録映画集1～3』（満州アーカイブス）／カムテック
- ・変わりゆく日本の大都市圏—ポスト成長社会におけ

- る都市のかたち／ナカニシヤ出版
- ・ 日本企業のアジア・バリューチェーン戦略／新評社
- ・ 地域振興としての農村空間の商品化／農林統計出版
- ・ 第三の産業革命—経済と労働の変化—／角川学芸出版
- ・ (조선시대 평안도 함경도) 실경산수화 / (朝鮮時代, 平安道, 咸鏡道) 実景山水画／成均館大学校出版部
- ・ *Handbook of population and family economics*: set, v. 1A, v. 1B. (Handbooks in economics 14)
- ・ *Le tourisme: acteurs, lieux et enjeux*, Belin
- ・ *Aux écoutes de la ville: enquête sur 3 villes suisses*, CRESSON / IREC
- ・ *Les représentations mentales en géographie*, Economica
- ・ *France Empire*
- ・ *Genève insolite*, Slatkine
- ・ *Tourisme et montagne*, Economica
- ・ *Des monts et des mythes: l'imaginaire social de la montagne*, Presses Universitaires de Grenoble
- ・ *Le guide Michelin, 1900*
- ・ *Traditional Wisdom and Modern Knowledge for the Earth's Future*, Springer
- ・ *Œuvres cinématographiques complètes: 1952-1978*, Gallimard
- ・ *Œuvres*, Gallimard
- ・ *Internationale situationniste: 1958-1969*, Arthème Fayard
- ・ *Les Lèvres nues: 1954-1958*, Allia
- ・ *Potlatch: 1954-1957*, Gallimard
- ・ *Mémoires: structures portantes d'Asger Jorn*, J.-J. Pauvert aux Belles Lettres
- ・ *Eugène Atget: Itinéraires parisiens*, Editions du Patrimoine
- ・ *Les portraits des histoires*, Aubervilliers, Les Laboratoires d'Aubervilliers
- ・ *The international population census bibliography, revision and update, 1945-1977*, Academic Press
- ・ *Mapping foreign residents in Japan* (韓国語訳版)
- ・ *Economic analyses using the overlapping generations model and general equilibrium growth accounting for the Japanese economy: population, agriculture and economic development*, World Scientific
- ・ *The Agglomeration of the Animation Industry in East Asia*, Springer
- ・ *Globalization and New Challenges of Agricultural and Rural System, Proceeding of the 21st Colloquium of the CSRS of the IGU, Nagoya, Japan August 2013*
- ・ *HIELO PATAGONICO (PATAGONIA ICEFIELD)*
- ・ *CARTA DE MEXICO Topográfica 1 : 250000*
- ・ *HISTORIA DE LA CIUDAD DE MEXICO CARTOGRAFIA TESTIMONIO HISTORICO DE UN PASADO*
- ・ *Mapa de Coatlichan* (地図と冊子)
- ・ *Mapa de Cuauhtinchan No.4* (地図と冊子)
- ・ *Códice de Tlatelolco: Estudio Preliminar de Perla Valle* (地図と冊子)
- ・ *L'idiote du voyage: histoires de touristes*, Payot
- ・ *Sur la Plage: mœurs et coutumes balnéaires*, Payot
- ・ *The Southeast Frontier of New Spain*, Princeton University Press
- ・ *Distribución geográfica y organización de las órdenes religiosas en la Nueva España, siglo XVI*, Instituto de Geografía, Universidad Nacional Autónoma de México
- ・ *Ladinización sin mestizaje. Historia demográfica del Área Chiapaneca 1748-1813* (CD-ROM 付)
- ・ *ECONOMIA, CIENCIA Y POLITICA, COORDINADORES COVARRUBIAS*
- ・ *Alexandre de Humboldt, historien et géographe de l'Amérique espagnole (1799-1804)*, F. Maspero
- ・ *Atlas ilustrado de los pueblos de indios :Nueva España 1800* (CD-ROM 付)
- ・ *Alejandro de Humboldt, historiador y geógrafo de la América española: 1799 - 1804, I, II*, Coordinación de humanidades
- ・ *Sitios de las cordilleras y monumentos de los pueblos*

- indígenas de América*, Extramuros Edición, S.L.
- *Humboldt, ciudadano universal*, Fondo De Cultura Economica USA
 - *Realidades y problemas de la geografía en México*, Nuestro Tiempo
 - *Ciudad de México y Ciudad Nezahualcóyotl*, Escuela Nacional de Estudios Profesionales Zaragoza
 - *LA CUENCA SUPERIOR DEL RIO GRIJALVA*, Instituto de Ciencias y Artes de Chiapas
 - *El soconusco y su zona cafetalera en Chiapas*, Instituto de Ciencias y Artes de Chiapas
 - *Regional economic development: the river basin approach in Mexico*, Cambridge University Press
 - *Ensayos sobre Humboldt*, Universidad Nacional Autónoma de México
 - *México a través de los mapas*, Instituto de Geografía, UNAM
 - *Alejandro de Humboldt: su vida y su obra*, Ministerio de Educación Pública
 - *Mexico, Land, Volk und Wirtschaft: mit 28 Bildern und einer wirtschaftsgeographischen Kartenskizze Karl Sapper*, L.W. Seidel
 - *Cities and Urban Geography in Latin America/ Ciudades Y Geografías Urbanas En Latino America*, Universidad Jaume I. Servicio De Comunicació Y Publicaciones
 - *Descripcion geografica del departamento de Chiapas y Soconusco, Geographical description of Chiapas and Soconusco (Tezontle)*, Fondo De Cultura Economica USA
 - *VEINTICINCO AÑOS EN LA GEOGRAFIA MEXICANA*, UNIVERSIDAD NACIONAL AUTONOMA DE MEXICO
 - *Libro de las descripciones : sobre la visión geográfica de la Península de Yucatán en textos españoles del siglo XVI*, Universidad Autónoma de México
 - *urbanización en América Latina: una bibliografía sobre su historia*, Centro de estudios urbanos y regionales
- Instituto torcuato di tella
- *Migración y desigualdad social en la ciudad de México*, Universidad Nacional Autónoma de Mexico (雑誌)
 - 茨城地理 第 15 号
 - エネルギー史研究 no.29
 - えりあぐんま 第 20 号
 - 大阪府立狭山池博物館研究報告 8
 - オーストラリア研究紀要 第 40 号
 - お茶の水地理 第 53 号
 - 海洋地質図 no.83 (CD) 襟裳岬沖海底地質図
 - 海洋地質図 no.84 (CD) 種子島付近表層堆積図
 - 外邦図研究ニューズレター No.11
 - 関西学院史学 第 42 号
 - 京都ラテンアメリカ研究所紀要 No.1-No.13
 - 京都府漁協だより 第 3-8 号
 - 空間・社会・地理思想 第 17-18 号
 - 国士舘大学地理学報告 no.22-23
 - 駒澤地理 第 50 号
 - しま no.237-240
 - 首都大学東京大学院都市環境科学研究科地理学教室 年報 2013 年度
 - 人文学部紀要 第 34 号 (神戸学院大学人文学部)
 - 人文地理学研究 34 (筑波大学大学院生命環境科学研究科)
 - 石炭研究資料叢書 no.35
 - 地域学研究 第 28 号 (駒澤大学)
 - 地域研究年報 36 (筑波大学)
 - 地域と社会 第 17 号 (大阪商業大学)
 - 地學雜誌 vol.123, no.2-6, vol.124, no.1
 - 地図情報 vol.34, no.1-4
 - 地理 5-12 月号(vol.59), 1-4 月号(vol.60)
 - 地理学研究 第 42 号 (駒澤大学)
 - 地理学報告 第 116 号 (愛知教育大学)
 - 地理学評論 vol.87, no.3-6, vol.88, no. 1-2
 - 地理研究 22 号 2015 (法政大学大学院)
 - 地理誌叢 第 55 卷第 2 号, 第 56 卷第 1, 2 号 (日本

- 大学)
- ・地理歴史人類学論集 5号 (琉球大学)
 - ・東南アジア研究 *Japanese Journal of Southeast Asian Studies*, vol.52, no.2
 - ・東北学院大学論集 歴史と文化 第52号
 - ・東北大学理科報告 第7輯 (地理学)
 - ・東北文化研究所紀要 第46号 (東北学院大学)
 - ・都市情報学研究 no.17, no.19 (名城大学)
 - ・砺波散村地域研究所研究紀要 第31号
 - ・奈良大地理 第20号
 - ・日本海地域の自然と環境 第21号 (福井大学)
 - ・人間科学 第31号 (琉球大学)
 - ・人間文化 H&S 34-36 (神戸学院大学)
 - ・広島大学現代インド研究 空間と社会 Vol.4-5
 - ・法政地理 第46-47号
 - ・文化史学 第70号 (同志社大学)
 - ・待兼山論叢 日本学篇 48 (大阪大学)
 - ・山形大学紀要 (社会科学) 第45巻第1号
 - ・立命館地理学 26 2014
 - ・歴史地理学野外研究 第16号 (筑波大学)
 - ・歴史人類 第43号 (筑波大学)
 - ・早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊第22号 -1, 2
 - ・早稲田大学大学院教育学研究科紀要 no.25
 - ・AFRICAN STUDY MONOGRAPHS vol.34 no. 3, no. 4, vol.35 no.1, 3&4, vol.36 no.1
 - ・AFRICAN STUDY MONOGRAPHS Supplementary Issue no.47-51
 - ・GEOGRAPHICAL REPORTS OF TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY No.49
 - ・IGU bulletin, Vol52, 53-54, 55-56, 61-62
 - ・LANGUAGES, MATERIALITY, AND THE CONSTRUCTION OF GEOGRAPHICAL MODERNITIES (10)
 - ・SOUTHEAST ASIAN STUDIES vol.3, no.1-3
 - ・Southeast Asian Studies 東南アジア研究 vol.52, no.1
 - ・Tlalocan: A journal of source materials on the native cultures of Mexico vol.VII (1977), VIII(1980), IX (1982), X(1985), XI(1989), XII(1997), XIII(2001), XIV(2004), XV(2008), XVI(2009), XVIII(2012)
 - ・Tsukuba geoenvironmental sciences vol.9 筑波地球環境科学/ University of Tsukuba
 - ・2013 JAPANESE PROGRESS IN CLIMATOLOGY (法政大学気候学談話会) (報告書)
 - ・「北海道 十勝 帯広市の地理」実習報告書(38) (2013年度関西大学地理学・地域環境学教室)
 - ・2013年度 地域調査実習報告書「和歌山・福岡」(金沢大学人文学類地理学教室)
 - ・2014年度 地理学実習 現地調査報告書 豊見城市 (京都府立大学)
 - ・和東町撰原区 調査報告書 2015
 - ・ちりレポ 第12号 城北学園
 - ・鳥取市の地理 地理学実習報告書(39), 2014年度関西大学地理学・地域環境学教室
 - ・大津湖南地域における今後の交通政策に関する提案 論文集・報告書
 - ・地域調査報告 17 2014 五島 (九州大学文学部地理学研究室)
 - ・東アジア低出生力国における人口高齢化の展望と対策に関する国際比較研究 (H24-地球規模一般-003) 平成 25 年度総括研究報告書 (厚生労働科学研究費補助金地球規模保健課題推進研究事業)
 - ・平成の合併政策終了後の合併・非合併市町村の現状
 - ・行政課題の解明と合併政策の総括 平成 22 年度～25 年度科学研究費補助金 基盤研究 (B) 課題番号 22320168 研究成果報告書(研究代表者: 西原純)
 - ・近代移行期歴史地理把握のタイムカプセル「赤門書庫旧蔵地図」の研究—科学研究費補助金基盤研究 (C) 「近代化摸索期の『国史』編纂と地図作成—赤門書庫旧蔵地図の研究」(課題研究: 24520737), 東京大学史料編纂所画像史料解析センター「赤門書庫旧蔵地図」プロジェクト報告書—

＜研究室の動静＞

教室の事務は、引き続き三上純子さん
にお願いしております。

本年度は、大学院博士後期課程2名、
修士課程5名、学部4回生12名、3回
生14名、科研研究員2名が在籍してい
ます。

＜新メンバーの自己紹介＞

本年度は、新たな顔ぶれとして、3回
生14名、博士後期課程1名、科研研究
員2名を迎えました。昨年休学していた
1名を含めて、皆さんに簡単に自己紹介
していただきます。

(3回生)

益田 天朗

出身は東京ですが、前々から一度は京都
で暮らしてみたいという思いがあり、京
大にまいりました。時間のある時に京都
をめぐるのを楽しんでいます。そのほか
にはチェロを弾くのも趣味です。富山県
の氷見に知り合いがあり、フィールドワ
ークなどでできればと考えています。

雨宮 いほ乃

新3回生の雨宮いほ乃です。行きたいと
ころはたくさんありますが中でもアイル
ランドにとっても行きたいです。アイル
ランドが好きですが、なぜ好きなのかわ
からないので、行ったらわかるのでは
ないかと願っています。将来は地元の
高知県に帰るかもしれません。

石崎 楓 (休学中)

金子 彰洋

初めまして。出身が山口県というな
かなかの田舎なので、地方都市や農
村漁村といった分野に興味がありま
す。趣味は音楽で、サークルでは合
唱漬けの日々を過ごしています。新
しい環境でとても不安です。こんな
自分ですが、よろしくお願
いします。

北村 光平

相撲部です。何か馬力が必要な時は
声をかけて下さい。

桐山 智久

初めまして。広島修道高校出身の桐
山です。地理は中・高と好きでしたが
まだまだ初心者なのでよろしくお願
いします。趣味は旅行で、春休みにウ
ユニ塩湖とマチュピチュに行ってきました。
巡検等にも興味があるので積極的に
参加していきたいです。

粉川 春幸

このたび地理学専修に配属されること
になりました。粉川春幸(こがわはる
ゆき)と申します。出身高校は東京
ですが、各地を転々としていたため
地域の違いに関心をもつようになり
当専修を志望しました。よろしくお
願いします。

坂下 結子

高校時代は電車通学をしていました
が、

駅個々に風景がちがうことを面白く思ったのがきっかけでした。しかしながら重度の方向音痴です。書庫で迷うのは日常茶飯事です。よろしくお願いします。

嵯峨 健史

地理の知識は高校までですが、精一杯勉強します。よろしくお願いします。

田畑 茉里香

新3回生の田畑です！出身は石川県七尾市！七尾への愛は誰にも負けません！東南アジアも大好きで、よく旅行に行きます！象使いの免許持ってます！よろしくお願いします！

土岐 馨

今年から地理学研究室に配属となりました、3回生の土岐馨です。私は幼い頃より鉄道を始めとする交通に関係する本を読んだり実物を見るのが好きで、そこから大学でも交通について学びたくて地理学を志望しました。これから励みますので、皆さんよろしくお願いします。

中野 洋志

この度、新しく地理学専修に分属しました、中野 洋志 といいます。兵庫県加古川市の加古川東高校出身です。最近野球で有名になった加古川北高校とよく間違えられますが、北ではなく東です(笑)。僕は基本的に文系の方が得意なのですが高校の時には一応理系で、その影響もあり様々な視点から学問ができるこの地理

学専修を選びました。高校の時に地理を教えて下さった先生に感化されたことも理由の一つです。これからは大好きな旅行にどんどん出かけて視野を広げつつ、地理学の考え方や技術をしっかり学んでいきたいと思います。よろしくお願いします。

西村 海人

はじめまして、西村海人です。生まれは福井県ですが、すぐに大阪に移ってはや20年です。海か山かでいったら海派ですが、そもそもインドア派です。泳ぎは下手なのでスイミングを始めたいです。よろしくお願いします。

藤井 瑛子

はじめまして。藤井瑛子です。実家は兵庫県の神戸市なので、自宅からの通学は可能なのですが、早起きが苦手なため京都で下宿しています。これからよろしくお願いします。

野城 千穂

今年度から地理学専修になります野城千穂です。東京出身です。クラシック音楽好きです。最近ハマっているのは自転車です。琵琶湖一周しました。旅好きです。大学在学中に47都道府県を制覇するという目標を立てましたが、半分も行けていません。頑張ります。よろしくお願いします。

(博士課程)

片桐 昂史

神奈川県横須賀市出身です。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻の修士課程を修了しました。西アフリカのセネガル共和国にて、塩づくりによる地形変化とマングローブ生態系の関係について研究しています。自然地理研究会の世話人をしていません。よろしくおねがいします。

(科研研究員)

藤田 知弘

アジア・アフリカ地域研究研究科から水野先生の下、研究員として参りました、藤田知弘と申します。これまでアフリカのマラウィという国で植生動態の調査を行ってきました。地理学教室のみなさまからいろいろと吸収したいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

山科 千里

水野先生の科研研究員として一年間お世話になります、山科と申します。アフリカのナミビアをフィールドにシロアリ塚と植物、動物との関係について調査を行っています。アジア・アフリカ地域研究研究科の研究員と兼任しており、週一度程度こちらの研究室でお世話になります。みなさま、どうぞよろしくお願ひいたします。

<2014年度の実習旅行>

2014年度は、10月20～23日まで、島根県松江市において、2回生・3回生の計11名が調査を行い、報告書を作成しました。

<学部卒業生・院生の進路>

* 学部卒業生

大澤 佑太郎	UR (都市再生機構)
小澤 南帆美	新生ホームサービス (株)
岡本 梓	国土地理院
清水 沙紀	JETRO (日本貿易振興機構)
竹輪 大志郎	—
立元 圭	JR 西日本
谷井 啓太	—
谷本 涼	文学研究科修士課程
仲田 志織	文学研究科修士課程
林田 雄介	国土交通省
山本 功	公益財団法人福武財団
米田 尊	(株) JTB

* 修士課程

井出 健人	ESRI ジャパン (株)
-------	---------------

<院生・研究員の研究状況の報告>

今年度までの院生の研究状況を報告します。以下は、閲読を経た論文のリストです。

D 3 朝倉 慎人

・生活空間への観光のまなざしと住民の対応—徳島県三好市東祖谷地区を事例として—, 人文地理, 66-1, 16-37 頁 (2014)

M 2 佐々木 夏妃

・近世京都の宿屋と都市空間－三条大橋西詰・中島町を中心に－, 史林, 97-6, 106-126 頁 (2014)

M 1 熊野 貴文

・大阪大都市圏郊外における戸建て住宅地の変容－近鉄学園前駅周辺の住宅地の事例－, 人文地理, 66-4, 46-62 頁 (2014)

科研研究員 藤田 知弘

・Role of the nurse rock effect in the establishment of woody plants in South African grassland. *TROPICS* 24 (2) (in press). (cowork with Kazuharu Mizuno)

・ *Ficus natalensis* facilitates the establishment of a montane rain-forest tree in south-east African tropical woodlands. *Journal of Tropical Ecology* 30: 303-310 (2014)

・Vegetation succession on Mt. Kenya in relation to glacial fluctuation and global warming. *Journal of Vegetation Science* 25: 559-570 (2014) (cowork with Kazuharu Mizuno)

・ *Brachystegia boehmii* and *Brachystegia floribunda* facilitate the establishment of montane forest trees in miombo woodland in northern Malawi. *TROPICS* 22: 59-66 (2013)

・ The woodland tree *Brachystegia floribunda* facilitates the encroachment of forest tree species into miombo woodlands

in northern Malawi. *Journal of Ecology and the Natural Environment* 5:217-223 (2013)

科研研究員 山科 千里

・ Importance of bird seed dispersal in the development of characteristic vegetation on termite mounds in north-eastern Namibia, *Tropics* 23 (1): 33-44 (2014)

・ Variation in savanna vegetation on termite mounds in north-eastern Namibia, *Journal of Tropical Ecology* 29: 559-562 (2013)

・ ナミビア北東部, 氾濫原に暮らす人々のシロアリ塚利用, 在来知/ZAIRA ICHI論集シリーズ 創刊号, 15-24 頁 (2013)

・ ナミビア北西部, モパネサバンナの植生に与えるシロアリ塚の影響, アジア・アフリカ地域研究, 10 (2), 123-143 頁(2011)

・ Interactions between Termite-mounds, Trees, and the Zemba People in the Mopane Savanna in Northwestern Namibia, *African Study Monographs Supplementary Issue* 40: 115-128 (2010)

<2015年度講義題目>

* 講義 (系共通科目) *

水野一晴・石川義孝 人文地理学概説

* 特殊講義 *

教授 石川義孝 人口減少時代の日本における地理学的課題の検討

教授 田中和子 近代地理学と科学をめぐる諸相

教授 水野一晴 世界の自然環境と人々の生活

准教授 米家泰作 知と表象の歴史地理学

人環教授 小島泰雄 中国農村の生活空間研究（前期）／中国における都市農村関係（後期）

地球環境学堂教授 小方 登 地理情報・衛星画像の処理・分析の基礎（前期）

AA 研准教授 大山修一 アフリカの社会と環境（前期）

理学研究科准教授 堤 浩之 地形学（学部）（後期）

講師 内藤正典 中東・イスラーム世界の現状と課題（後期1）／中東・イスラーム世界の諸問題に関するケーススタディ（後期2）

講師 作野広和 中山間地域の研究（前期・集中）

講師 横山 智 東南アジア大陸部の自然と文化（前期・集中）

講師 星田侑久 GIS の基礎（前期・集中）／GIS の応用（前期・集中）

※（演習／20世紀学科目と共通）

客員准教授 上杉和央 戦争の記憶の現在（前期）／20世紀へのアプローチ～景観調査を通じて～（後期）

演習Ⅰ—地理学研究法—

石川義孝・田中和子・水野一晴・米家泰作

演習Ⅱ—4回生演習—

石川義孝・田中和子・水野一晴・米家泰作

講読

教授 石川義孝 英語地理書講読
教授 田中和子 ドイツ地理書講読
人文研助教 小川佐和子 フランス地理書講読（前期）

文学研究科教授 小山 哲 フランス地理書講読（後期）

人文研助教 山崎 岳 中国地理書講読（前期・後期）

地理学実習

石川義孝・田中和子・水野一晴・米家泰作

大学院演習—地域の諸問題—

石川義孝・田中和子・水野一晴・米家泰作

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

事務局から

<地理学談話会2014年度会計報告>

（2014年4月1日～2015年3月31日）

【資金会計】

<収入>

年会費	104,000
寄附金	0
利子	55
前年度繰越金	382,970

計 487,025

<支出>

運営への振替	113,765
郵便振替手数料	6,090
次年度への繰越	367,170

計 487,025

【運営会計】

<収入>

資金会計からの振替	113,765
秋季懇親会会費	50,800
春季懇親会会費	90,000

計 254,565

<支出>

秋季懇親会	50,712
講師3名交通費	32,000
OB交流会経費	0
春季論文発表会経費	90,000
会報・名簿等印刷費	5,000
会報製本費用	0
通信・文具等費	76,853
弔電・供花等	0

計 254,565

<訃報>

前回の会報以降、次の方々がお亡くなりになりました（お亡くなりになったとのお知らせをいただいた方を含みます）。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（確認分、括弧内は卒業年、敬称略）

<訃報>

堀川 侃（1941年卒）
中村 文雄（1960年卒）

<住所不明者についてお願い>

以下の会員の住所が不明です。ご存じ

の方は、談話会事務局までご一報ください。（数字は卒業年、敬称略）

安福 伸光	(1997年卒)
池内 麟太郎	(1973年卒)
石角 強	(1970年卒)
石橋 弘嗣	(2006年卒)
石原 大嗣	(1997年卒)
石原(林)美歩	(1995年卒)
石村 裕輔	(1992年卒)
今井 平八	(1944年卒)
岩部 敏夫	(1991年卒)
上田 直人	(2009年卒)
内山 隆之	(1987年卒)
江崎 健治	(1992年卒)
遠藤 元	(1996年卒)
遠藤 正雄	(1978年卒)
太田 隆文	(1997年卒)
大野 宏	(1992年卒)
大山 晃司	(1995年卒)
岡本 靖一	(1967年卒)
岡本 美津子	(1987年卒)
興津 俊之	(1991年卒)
小口 稔	(1991年卒)
楓 雅之(泰昌)	(1945年卒)
片寄 弘也	(2004年卒)
勝村(赤座)眞知子	(1973年卒)
叶谷 房子	(1998年卒)
川合 大地	(1998年卒)
川添 和明	(1995年卒)
貴志 謙介	(1981年卒)
木地 節郎	(1949年卒)
北口 卓美	(1990年卒)
木村 宏	(1949年卒)
木村 洋之介	(1949年卒)

木村 善則	(2008 年卒)	御手洗 央治	(1993 年卒)
久保 智祥	(2003 年卒)	宮澤 博久	(2005 年卒)
西井 (小林) 理子	(2002 年卒)	保江 志帆	(2003 年卒)
坂部 誠治	(1991 年卒)	山口 一郎	(1980 年卒)
酒匂 幸樹	(2000 年卒)	山口 秀樹	(1997 年卒)
指尾 喜伸	(1988 年卒)	山下 良	(1989 年卒)
島崎 郁司	(1996 年卒)	山田 (児玉) 憲子	(1970 年卒)
嶋野 浩一朗	(1997 年卒)	山田 浩子	(2000 年卒)
清水 究吾	(1998 年卒)	山中 一高	(1991 年卒)
新谷 泰久	(1990 年卒)	吉野 修司	(1995 年卒)
鈴木 伸国	(1988 年卒)	吉村 健志	(2002 年卒)
田島 渡	(1948 年卒)	六嶋 美也子	(1993 年卒)
田辺 賢一郎	(1949 年卒)	渡邊 克己	(2004 年卒)
田村 麗花	(2014 年卒)		
都子 厘	(1940 年卒)		
帙田 剛	(2014 年卒)		
中山 耕至	(1993 年卒)		
那須 久代	(1988 年卒)		
檜崎 (藤川) こず恵	(1998 年卒)		
南部 一寿	(1999 年卒)		
西尾 正隆	(1970 年卒)		
西沢 仁晴	(1974 年卒)		
西山 隆彦	(1995 年卒)		
能勢 (朝倉) 正寛	(1962 年卒)		
野瀬 美咲	(2010 年卒)		
長谷川 博幸	(1971 年卒)		
林 (東) 洋子	(1965 年卒)		
原 健太	(2003 年卒)		
原 潤	(1997 年卒)		
平井 素子	(1996 年卒)		
福田 新一	(1971 年卒)		
古川 昇平	(2006 年卒)		
前田 奈実	(1999 年卒)		
松本 弘史	(1983 年卒)		

＜オープンキャンパス：2014年度の 報告と2015年度のお知らせ＞

2014 年 8 月に京都大学のオープンキャンパスが開催されました。文学部の見学・説明会もこの一環として、7 日に行われました。文学部の全体説明のあと、各自が希望する専修の研究室を訪問してもらいました。

2015 年度の京都大学主催の全学オープンキャンパスについては、
<http://www.kyoto-u.ac.jp/> をご覧下さい。
文学部の見学・説明会は、8 月 6 日 (木) の予定です。

地理学教室では、大学院の受験志望者や、中学高校の教員の方々、また、一般の市民の方にも参加して頂けるような見

学会を10月31日(土)に開催する予定です。詳細な日程や参加申込の案内は、地理学教室のホームページ、http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-top_page/に掲載する予定ですので、ご覧下さい。

<2015年度秋季地理学談話

のお知らせ>

本年は、下記のようなプログラムを予定しております。ぜひお越しください。

記

日 時：10月31日(土)

午後1時—5時

場 所：文学部新館

◎教室見学会：午後1時より

◎OB交流会：午後2時より

講師 前田 真寿実氏(2013年卒)

他1名(交渉中)

(文学部新館 地理学実習室)

◎講演会：午後3時半より

秋山 元秀氏(1969年卒)

(文学部新館 地理学実習室)

◎懇親会：午後5時より

(文学部新館 地理学共同研究室)

<地理学教室所蔵の

写真資料について>

地理学共同研究室や総合博物館地理作業室のロッカーの中に保管されていた地理学教室関係者の古い写真が数百枚あります。

卒業生の方々に見ていただき、写真に関する情報のご提供や、整理方法のご教示などをいただければと願っております。

どうぞ、お気軽に教室をお訪ねいただき、アルバムをご覧くださいませよう、お願い申し上げます。

☆一年あたり千円を目処として、それぞれの会員の方々に、談話会の運営経費へのご協力をお願いしております。随時、ご支援をお願いいたします。納入の際は、同封しております「郵便振替用紙」をご利用下さい。

京都大学文学部地理学談話会 会報 第26号

発行日 2015年5月15日

発行者 地理学談話会

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

京都大学文学部 地理学教室内

TEL: 075-753-2793 (直通)

発行所 京都大学文学部地理学教室

URL http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-top_page/